

平成 29 年度教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業
—民間教育事業者との連携による教員の資質能力向上事業—

(委託事業成果報告書)

長 崎 大 学

は じ め に

本事業は、「平成 29 年度教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」のうち、「民間教育事業者との連携による教員の資質能力向上事業」という実施テーマを選び、「Elementary English Teacher (EEI)を活用した教員研修モデルの研究開発」という主題で応募し採択された事業である。

平成 32 年度より完全実施となる英語教育の新しいカリキュラム、とりわけ教科としての外国語（英語）に、小学校の先生方ができるだけ円滑に対応できるよう、EEI の方々との連携・協力を得て、授業モデルを研究・開発するのが本事業の目的であった。

EEI の方々との連携・協力は、本事業が初めてではない。平成 26 年度から 2 年間、長崎市教育委員会及び大村市教育委員会との共催という形で、外国語活動における指導技能の向上を図る研修を小学校の先生方（と中学校英語教員の希望者）を対象にして共に実施してきた。また、平成 28 年度から本年度は、長崎県東彼杵郡三町（川棚町・波佐見町・東彼杵町）の教育委員会と同様の形をとって、英語の新しい制度・カリキュラムをいち早く見据えた教員研修も提供してきた。

その一方で、長崎県佐世保市の離島にある黒島小中学校に出張研修を 2 回行った。1 回目は、東彼杵郡で実施した研修と同様の目的で、教員研修とモデル授業を提供した。2 回目は、新しい学習指導要領を先取りする形で、パフォーマンステストを黒島小学校 5・6 年生の児童に実施した。

本事業を実施するにあたって、長崎市教育委員会 EEI の久留生真弓氏、松尾愛子氏、松尾智子氏、寺田よしみ氏、それに長崎大学英語支援室員の宮脇恵美氏、には、教員研修プログラムの企画段階から、主に小学校での授業の実情という観点から有益な情報及びコメントをいただいた。とくに、宮脇恵美氏には、東彼杵郡の研修で使用した教材の選定・編集では大変お世話になった。また、黒島小学校でのモデル授業のインストラクターとして授業も行ってもらった。ここに感謝申し上げたい。

最後に、本事業の主な目的であった東彼杵郡での教員研修を実施できる環境を整備するのに、長崎大学地域教育総合支援センター副センター長の池田浩氏にご尽力いただいた。池田氏には、研修当日にもご参加いただき、開催する側だけでなく、受講する側の立場からの貴重な助言・コメント等をいただいた。池田氏の協力がなければ、本事業は実施できなかったかもしれない。

目 次

東彼杵郡教員研修会資料	1
黒島小学校パフォーマンステスト資料	21
研究事業報告論文 「パフォーマンス評価とその意義」	24

英語指導力向上のための教員研修会

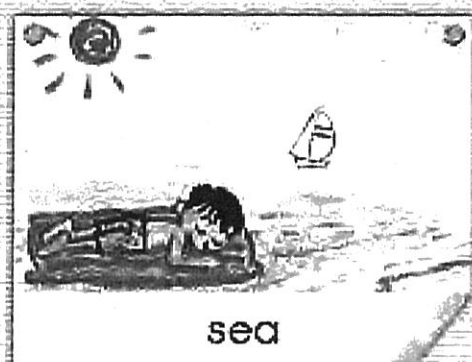
平成29年8月23日（水）

時間	プログラム内容
09:30～09:40	開会式（川棚町教育長 竹下修治）
09:40～10:00	英語で自己紹介（長崎大学 Kerry Pusey & 宮脇恵美）
10:00～10:30	新学習指導要領・新教材の扱い（長崎大学 廣江顕）
10:30～10:35	休憩
10:35～11:35	モデル授業（長崎市教育委員会 EEI 松尾愛子）
11:35～11:50	モデル授業（長崎市教育委員会 EEI 寺田よしみ）
11:50～12:00	Q&A
12:00～13:00	昼休み
13:00～13:30	クラスルーム・イングリッシュ（長崎大学 Kerry Pusey）
13:30～15:00	ワークショップ（長崎市教育委員会 EEI 松尾智子、久留生真弓、長崎大学 宮脇恵美）
15:00～15:10	休憩
15:10～16:20	パフォーマンス・セッション
16:20～16:30	閉会式（長崎大学地域教育総合支援副センター長 池田浩）

Unit 5

My Summer Vacation

OUR SUMMER

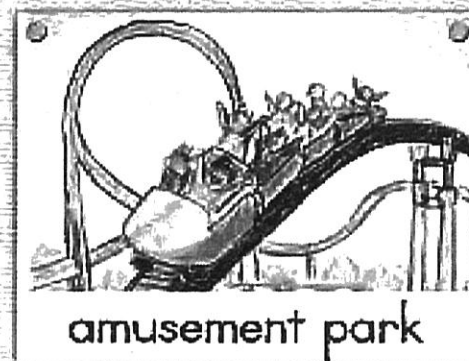


Let's Play

1 ポインティング・ゲーム

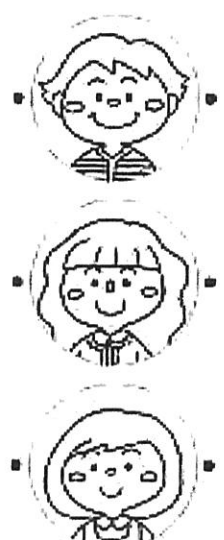
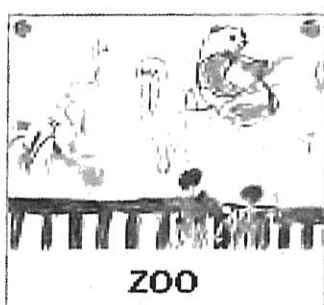
Let's Chant

Summer Vacation



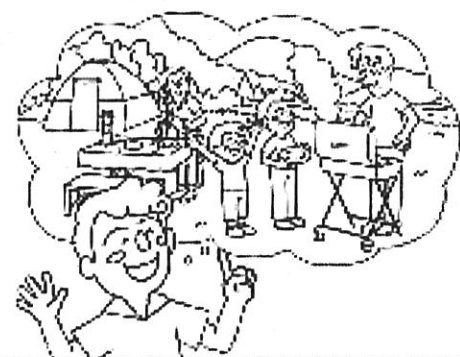
Let's
Listen

1 夏休みの思い出は何か、
登場人物と思い出を線で結ぼう。



Let's Watch
and Think

1 行ったところや、したことなどを書こう。



行ったところ

したこと

その他



行ったところ

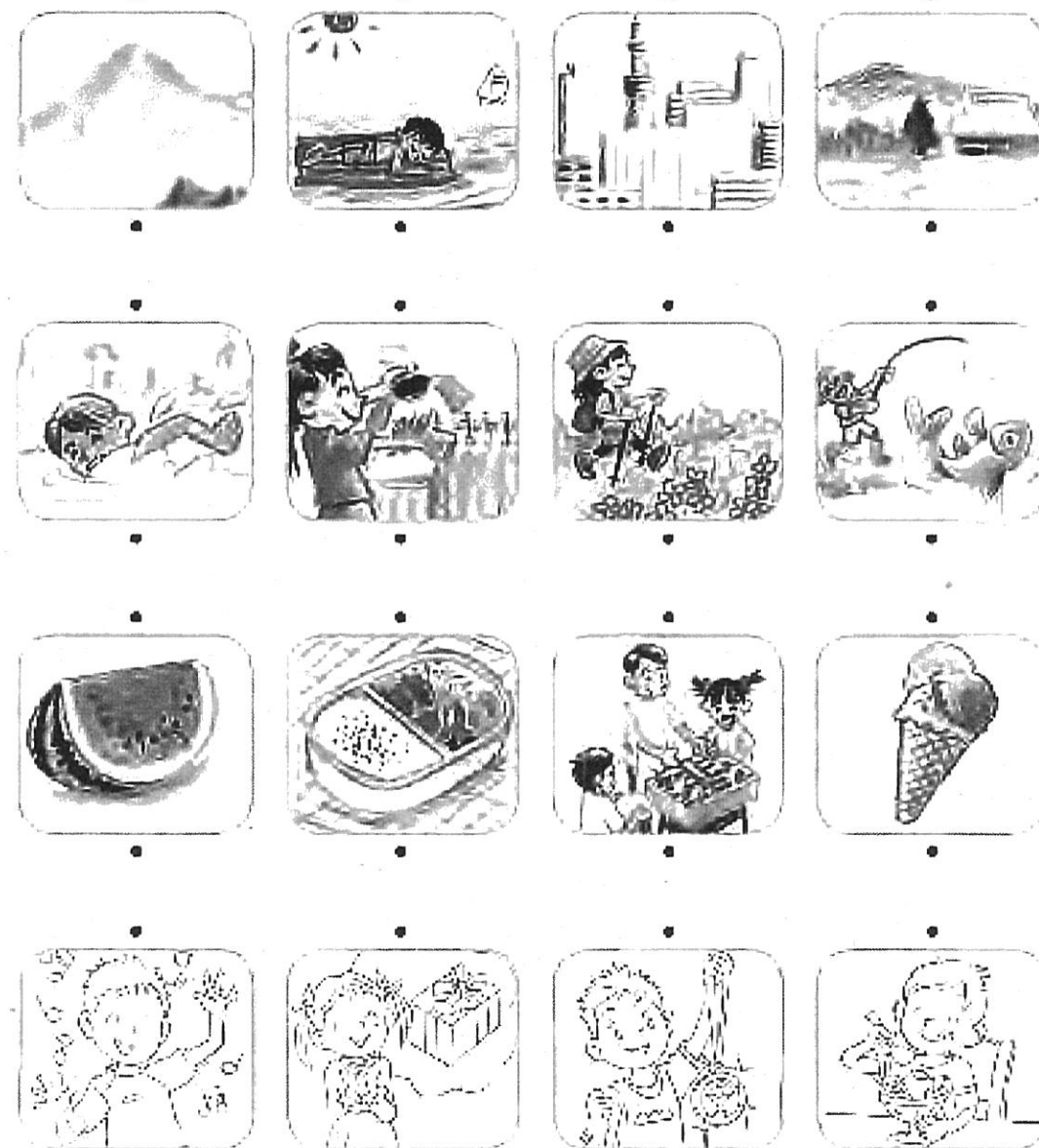
したこと

その他

p

Let's
Listen

2 だれのことか考えて、線で結ぼう。



Let's Read and Write

I went to the sea.

It was fun.



気持ちを表すことば

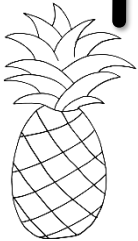
fun wonderful

exciting nice

good interesting

Sounds and Letters

P p



pineapple

P

p

振り返りカード

- 夏休みの思い出の話を聞き、
その人が行った場所が分かりましたか？

○

--	--

 ×

- 夏休みの思い出の話を聞き、
その人の感想が分かりましたか？

--	--

- 自分が行った場所を友達に伝えられましたか？

--	--

- 自分の感想を友達に伝えられましたか？

--	--

- 積極的にレッスンに参加出来ましたか？

--	--

- 楽しくレッスンを受けられましたか？

--	--

- 今日のレッスンの感想や気付いた事を書きましょう。

--	--

第6学年 Unit 5 My Summer Vacation 夏休みの思い出 2/8時間

- 目標： ・夏休みの思い出についての話を聞き、行った場所や感想などが分かる。
・過去の表現の仕方が分かり、夏休みに行った場所とその感想を伝え合う。

準備： デジタル教材、児童用テキスト、ワークシート、絵カード、振り返りカード

時間	児童の活動	指導者(T)の活動と使用英語例 ◎ 評価（方法）	準備物												
1分	・挨拶をする。	・全体に挨拶し個別に数名の児童に挨拶する。													
9分	【Let's Play】ポインティングゲーム ①② ・前時と同様に取り組む。(①個人、②ペア)	・前時と同じ要領で行う。	絵カード												
5分	【Let's Watch and Think①】 ・世界の国々の子供たちが夏休みの思い出について話している映像資料を視聴し、誰が何をしたか等を誌面の表に記入する。また、日本の夏休みとどのように違うのか比べながら聞く。 <table border="1"><tr><td></td><td>Mark (the USA)</td><td>John (Australia)</td></tr><tr><td>行った場所</td><td>山 (きれいだった)</td><td>講演 (よかった)</td></tr><tr><td>したこと</td><td>キャンプをした。 (楽しかった)</td><td>フットボールをした。 (わくわくした) サンドウィッチを食べた。 (おいしかった)</td></tr><tr><td>その他</td><td>夏休みが長い</td><td>今は冬</td></tr></table> ・2回繰り返して聞いた後、答えを確認する。		Mark (the USA)	John (Australia)	行った場所	山 (きれいだった)	講演 (よかった)	したこと	キャンプをした。 (楽しかった)	フットボールをした。 (わくわくした) サンドウィッチを食べた。 (おいしかった)	その他	夏休みが長い	今は冬	T: Let's listen to the talk. デジタル教材の英語 A: Hello everyone! I'm Mark. I'm in the USA. We have a long summer vacation from June to August. I went to the mountain this summer vacation. It was beautiful. I enjoyed camping. It was fun. B: Hello everyone! I'm John. I'm in Australia. Australia is in winter now. I went to the park this summer vacation. It was nice. I enjoyed Australian football with my friends. It was exciting I ate sandwiches. It was good. ◎夏休みの思い出についての話を聞いて、行った場所やしたことを紙面に書くことができる。 〈記述観察〉	デジタル教材、児童用テキスト
	Mark (the USA)	John (Australia)													
行った場所	山 (きれいだった)	講演 (よかった)													
したこと	キャンプをした。 (楽しかった)	フットボールをした。 (わくわくした) サンドウィッチを食べた。 (おいしかった)													
その他	夏休みが長い	今は冬													
5分	【Let's Play】フェイント・リピートゲーム ・感情を表す形容詞を使って取り組む	・黒板に、児童と言い方を確認しながら感情を表す形容詞絵カードを貼る。 ・指導者が指すものを、指導者の後について発音するように言う。	絵カード												

	fun, exciting, interesting, cool, delicious, beautiful, good, nice great, wonderful	慣れてきたら、指導者は指さしたものと違う語を言う。児童はそれに惑わされずに指されたものの語を言う。	
5 分	【Let's Chant】 Summer Vacation 	・まず、チャンツを聞かせ、どのような音が聞こえたかを発表させる。聞こえた語を児童と確認してから、一緒にチャンツを言う。 チャンツ My summer vacation, very nice. I went to the mountain. I went to the sea. I enjoyed hiking. I enjoyed swimming. I ate ice cream. I ate watermelon. Ummm, nice vacation.	デジタル教材
5 分	【Let's Talk】 ・夏休みに行った場所とその感想についてペアで伝え合う。 S1: I went to the sea. It was beautiful. How about you? S2: I went to the mountain. It was nice. S1: I see. Thank you.	T: Now let's talk about your summer vacation memories. ・前時の「Let's play」で伝え合ったことに感想を加える形で児童に言わせるとよい。 また、海や山などの特別な場所に行かなかった児童もいることに配慮し、学校や近くの公園、買い物等も含めて伝え合うよう指示をする。 ◎ I went to ～. It was ～などを使って夏休みに行った場所とその感想について伝え合っている。〈行動観察〉	
5 分	【Let's Read and Write】 書く例文: I went to (the sea). It was (fun). 音声聞いて繰り返し読んだ（言った）後、ワードボックスから言葉を選んで書き写す。	T: Please listen to the sentence and look at the words in your textbook. T: Listen to the sentence again and read it. Copy one word from the word box.	デジタル教材、ワークシート
5 分	【Sounds and Letters】 ・ジングルを一通り聞く。 ・誌面にある p で始まる単語を見て、発音する。	・（時間に余裕があれば）ジングルを聞かせる（※１） T: Listen to the jingle. Let's say the jingle together.	

	その音で始まる単語を制限時間内に発表し合う。 ・ワークシートの4線上に p の文字を書く。	Look at the pictures in your textbook. Please repeat after the jingle. ・サウンド・テニス (※2) をすることを告げる。 T: Let's play "Sound Tennis." Think of any words starting with /p/. Now, say the words within five seconds. ・まず、指導者と児童全員で行い、児童が慣れてきたらペア対抗で行わせたり、制限時間を短くしていくなどするとよい。 ・ワークシートの4線上に p の文字を書くよう指示する。 T: Please write the letter with the sound /p/.	
5 分	【振り返り】 ・本時の活動を振り返り、振り返りカードに記入する。 ・挨拶をする。	・本時のねらいに照らして児童を評価する。 ・挨拶をする。	振り返りカード

※1 ジングルは、5年生は新教材の誌面及びデジタル教材で扱われており、6年生は新教材のデジタル教材のみに収録されている。

※2 サウンド・テニスとは、学習している音（ここでは/p/）への気付きを高め、既習単語を復習することを目的とした活動である。

〈活動の手順〉

- ① 2つのグループに分かれる。児童の実態や、この活動に取り組み始めて間もない頃は、指導者対児童で行うことも考えられる。
- ② 学習している音（ここでは/p/）から始まる単語を考える。
- ③ 学習している音（/p/）から始まる単語を制限時間内に言うことができるように競う。（Five, four, three, two, one, time is up! などと指でカウントしながら時間が経つことを伝えるとよい。）

モジュール指導案（15 分） Small Talk 編

時間	児童の活動	指導者の活動と使用英語例	準備物
1 分	挨拶をする。	- 全体に挨拶し、個別に数名の児童に挨拶する。 - 曜日、日付、天気を尋ねる。	
3 分	○ Small Talk 話題：夏休みの思い出（行った場所・感想） Step 1 全体で先生と対話する。	- 全体と対話をする。 T: Think about your summer vacation. T: Did you enjoy your summer vacation? I went to <u>Mt. Inasa</u>. It was great! How about you, S1? S1: Amusement park. Great! T: Oh, you went to the amusement park, and it was great. That's nice. How about you, S2? S2: I went to <u>Yume-saito</u>. It was fun! T: You went to <u>Yume-saito</u>. That's good. ”Mt. Inasa”と”great”の絵カードを黒板に貼る。 □部分： 参考＜図表 2＞Small Talk 指導例 [第 3 時] 研修ガイドブック 授業研究編 p.85	絵カード
2 分	Step 2 対話 1 回目 ペアを組み、対話する。	T: OK, please talk about your summer vacation in pairs. Make pairs.	
2 分	Step 3 先生と英語表現を確認する。	T: Do you have any questions? S3: 「海に行った」って言いたい。 T: 「海に行った」って、なんて言えбайいかな。 S4: Sea! T: そうだね。I went to the sea. と言えбайいいね。 S5: 「わくわくした」は？ S6: exciting だよ！ T: そうだね。It was exciting! と言えбай伝わるね。 □部分： 抜粋＜図表 3＞Small Talk 指導例 （1 回目の対話後）[第 3 時] 研修ガイドブック 授業研究編 p.85	

3 分	- 感想を表す形容詞を言う。 - 全体で黒板のカードを言う。 - 相手が言ったことに対する一言感想を表す表現を言う。 - 全体で黒板のカードを言う。	T: exciting のほかに感想を表す言葉は、何があったかな？ - 児童があげた感想を表す形容詞絵カードを黒板に貼る。 T: Now, let's review the words. T: 相手が言ったことに対して、「よかったね！」のような表現は、他に何があったかな？ - 児童があげた感想を表す表現カードを黒板に貼る。 T: Now, let's review the words.	絵カード 表現カード
2 分	Step 4 対話 2 回目 ペアを組み対話する。	T: Please talk about your summer vacation in pairs. Change partners. 今度は、前後でペアを組んでください。相手の言ったことに対して、感想を表す表現を使うことに気をつけて会話をしてみようね。	
2 分	Step 5 振り返り - 自身の対話を振り返る。 - 活動の感想を発表する。 - 挨拶をする。	T: Let's look back on today's lesson. 相手の言ったことに対して、一言感想を言うことができた人、手をあげてください。 T: Do you have any comments about today's lesson? だれか、今日の活動の感想を言ってください。 OK. That's all for today. You did a good job! 挨拶をする。	

Everyday Classroom English

Starting the Class (授業を始める)

Teacher Expression (Japanese)	Teacher Expression (English)	Student Response (Japanese)	Student Response (English)
おはようございます。	Good morning.	おはようございます。	Good morning.
こんにちは。	Hello / Good afternoon.	こんにちは。	Hello / Good afternoon.
みなさん、こんにちは。	Hello, everyone.	こんにちは。	Hello / Hi
英語の時間です。	It's time for English Class.	やった～！	Yeah! / Yay!
元気ですか？ 今日の調子はいかがですか？	How are you? How are you today?	元気です。元気です、ありがとうございます。	I'm fine / I'm good, thank you.
今日は何曜日ですか？	What day is it today?	金曜日です。	It's Friday.
今日は何月何日ですか？	What's the date today?	4月25日です。	It's April twenty-fifth.
今日の天気はどうですか？	How's the weather today?	晴れています/曇りです/雨です	It's sunny / cloudy / rainy.

Ending the Class (授業を終わる)

Teacher Expression (Japanese)	Teacher Expression (English)	Student Response (Japanese)	Student Response (English)
今日はこれで終わりにします。	That's all for today.	X	X
今日の授業は楽しかったですか？	Did you enjoy today's class?	はい。楽しかったです！	Yes I / we did!
また、次回会いましょう。	See you next time.	また会いましょう。	See you!
気を付けて。	Take care.	あなたも。	You too.
さようなら。	Goodbye. / See you.	さようなら。	Bye / See you.
良い週末を。	Have a nice weekend.	ありがとうございます。あなたも。	Thank you, you too!

Student Questions (児童からの質問)

Student Expression (Japanese)	Student Expression (English)
「おなかが痛い」は英語で何と言いますか？	How do you say <i>onaka ga itai</i> in English?
「おなかが空いた」はどんな意味でしょう？	What does <i>hungry</i> mean?
これは正しいですか？	Is this right?
もう少しゆっくり話してくれますか？	Could you speak more slowly?

もう一度言ってもらえますか？	Could you say that again, please?
すみません。わかりませんでした。	I'm sorry, I didn't understand.
手伝ってくれますか？	Can you help me?

Praising (児童をほめる)

Teacher Expression (Japanese)	Teacher Expression (English)
正解です。	That's right.
よくできました。	Good / Great / Good job / Well done
いいアイデアですね。	Good idea!
素晴らしい。	Wonderful / Excellent / Fantastic / Super / Perfect
おめでとう。	Congratulations.
良くなってきたね。	You are getting better.
よくやっているね。	You are doing well / great.
手伝ってくれてありがとう。	Thank you for your help.

Cheering Up/Encouraging (児童を励ます)

Teacher Expression (Japanese)	Teacher Expression (English)
あきらめないで。	Don't give up.
心配しないで。	Don't worry.
間違えても大丈夫ですよ。	It's OK to make mistakes.
よく頑張ったね。	Nice try / Good try
惜しい。	Close / Almost
もう一度言ってみましょう・やってみましょう。	Say it again. / Try it again. / One more time.
初めからもう一度やってみましょう。	Let's start over.
その調子。	Keep it up.
君ならできる。	You can do it.
焦らないで。	Take your time.

Classroom Instruction (教室で指示を出す)

Teacher Expression (Japanese)	Teacher Expression (English)
立ちなさい。	Stand up.
座りなさい。	Sit down.
準備はいいですか？	Are you ready?

始めましょう。	Let's begin. / Shall we begin?
机を寄せなさい。	Put your desks together.
すべて片付けなさい。	Put everything away.
テキストを取り出さない。	Take out your textbook.
テキストを片付けなさい。	Put your textbook away.
机をきれいにしなさい。	Clean your desks.
テキストの 6 ページを開きなさい。	Open your textbook to page six.
ページをめくりなさい。	Turn the page.
絵を指さしなさい。	Point at the picture.
この絵の中の犬を探せますか？	Can you find the dog in the picture?
このワークシートを持っていますか？	Do you have this worksheet?
ワークシートに名前を書きなさい。	Write your name on the worksheet.
あなたの顔の絵を描きなさい。	Draw a picture of your face.
よく聞いて、点と点を線で結びなさい。	Listen carefully and connect the dots.
もう一度言って下さい。	Could you say that again?
CD を聞きなさい。	Listen to the CD.
CD がちゃんと聞こえますか？	Can you hear the CD all right?
これが見えますか？	Can you see this?
これをしっかり見なさい。	Look at this carefully.
私の後について繰り返しなさい。	Repeat after me.
手を挙げなさい。	Raise your hand.
話しをやめなさい。	Stop talking.
テキストを閉じなさい。	Close your textbook.
絵を切り取りなさい。	Cut out the pictures.
あと 1 分です。	One minute left.
もう 1 分延長します。	I'll give you one more minute.
鉛筆を置きなさい。	Put your pencil down.
スクリーンを見なさい。	Look at the screen.
もう少し練習しましょう。	Let's practice a little more.
リンゴを赤で塗りなさい。	Color the apple red.
リンゴを丸で囲みなさい。	Circle the apple.
グループで話し合いなさい。	Talk in your group.
一緒に言いましょう。	Let's say it together.

Activity Instruction 1 (アクティビティを行う)

Teacher Expression (Japanese)	Teacher Expression (English)
並びなさい。	Line up.
2 列に並びなさい。	Make two lines.
4 チームに分かれなさい。	Make four teams.
ペアになりなさい。	Make pairs.
相手を変えなさい。	Change partners.
向かい合いなさい。	Face each other.
円になりなさい。	Make a circle.
歩き回って相手をみつけなさい。	Walk around and find a partner.
出来るだけたくさん友だちを見つけないさい。	Find as many friends as possible.
前に来なさい。	Come to the front.
前の方に来なさい。	Move forward.
真ん中に来なさい。	Come to the center.
後ろに下がきなさい。	Step back.
最初は誰ですか？	Who's first? / Who goes first?
やりたい人はいますか？	Any volunteers?
あなたの番です。	It's your turn. / You are next.
わたしの番です。	It's my turn.
おさきにどうぞ。	Go ahead.
役割を交替しなさい。	Switch roles. / Change roles.
質問はありますか？	Do you have any questions?
他に質問はありますか？	Any other questions?

Ending Activities / Games (アクティビティを終了する)

Teacher Expression (Japanese)	Teacher Expression (English)
終わります。	Time's up.
やめなさい。	Stop now.
終わったら座りなさい。	When you are done, sit down.
誰が勝ちましたか？(引き分けです。私の勝ちです！私たちの勝ちです！)	Who won? (It was a tie / I won! / We won!)
5 班の勝ちです。	Team five is the winner.

Let's Play Pointing Game ・絵カード



cool



exciting



great



fun



interesting



beautiful



good



nice

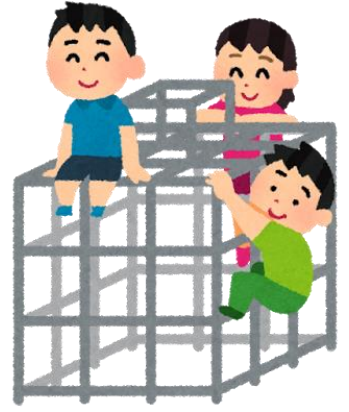


delicious



wonderful

Let's Read and Write



I went to the park.

It was nice.

場所を表すことは

my grandparent's place

the park

the amusement park

気持ちを表すことは

nice

great

beautiful

Blank handwriting practice lines for additional writing.

ふり返りカード

名前()

月 日

	 Excellent	 Okay	 Not so good
夏休みの思い出の話を聞き、その人が行った場所が分かりましたか？			
夏休みの思い出の話を聞き、その人の感想がわかりましたか？			
自分が行った場所を友達に伝えられましたか？			
自分の感想を友達に伝えられましたか？			
積極的にレッスンに参加できましたか？			
楽しくレッスンを受けられましたか？			
【今日の授業でがんばったこと、友だちのよかったところ】			

第6学年 Unit 5 My Summer Vacation 夏休みの思い出 3/8時間

目標： ・過去の表現の仕方が分かり、夏休みに行った場所とその感想を伝え合う。

準備： デジタル教材、児童用テキスト、ワークシート、絵カード、振り返りカード

時間	児童の活動	指導者(T)の活動と使用英語例 ◎ 評価（方法）	準備物
1分	・挨拶をする。	・全体に挨拶し、個別に数名の児童に挨拶する。	
9分	【Small Talk】 話題：夏休みの思い出（行った場所・感想） S1: I went to the amusement park. It was fun! S2: You went to the amusement park. That's nice! S1: How about you? S2: I went to Okinawa. It was beautiful! S2: You went to Okinawa. That's great.		絵カード
5分	【Let's Chant】 Summer Vacation	1. 全パート先生と歌う。 2. 一文交代で先生と児童で歌う。 3. 全部一緒に歌う。 チャンツ My summer vacation, very nice. I went to the mountain. I went to the sea. I enjoyed hiking. I enjoyed swimming. I ate ice cream. I ate watermelon. Ummm, nice vacation.	デジタル教材

10 分	【Let's Talk】 「夏休みに行った場所や感想を伝え合おう」	T: Let's talk in a group.	
	〈活動の手順〉 ・ 5～6人でグループを作る。 ・ グループで円になり、それぞれ言う「夏休みに行った場所」を決める。 ・ 最初の児童が自分の「夏休みに行った場所」を言う。 ・ 次の児童は、前の児童が言ったことを You と繰り返して言った後、自分の「場所」を付け足す。 ・ その順番で最後の人まで、場所を付けたし、文を言っていく。 ・ どのグループが最初に全員が言い終わるかを競う。 ・ 次に、言った場所に感想を付け加えて言い、同様の活動を行う。		
	S1: I went to the sea. S2: You went to the sea and I went to the swimming pool. S3: You went to the swimming pool and I went to the amusement park.	◎ I went to ～. It was ～. などを使って、夏休みに行った場所とその感想について伝え合っている。〈行動観察〉	
10 分	【Let's play】ポインティング・ゲーム ・ 感想を表す形容詞を使ってポインティング・ゲームを行う。 fun, exciting, interesting, cool, delicious, beautiful, good, nice, great, wonderful	・ ポインティング・ゲームをすることを伝える。 ・ 指導者言う It was ～. を繰り返し、誌面にある感想を表す絵を指す。児童が慣れてきたら、指導者は感想だけでなく、I (went to / ate / enjoyed) ～. It was ～. と言い、児童に You (went to / ate / enjoyed)～. It was ～. と繰り返し言わせるようにする。	絵カード、児童用テキスト
5 分	【Let's Read and Write】 書く例文: I went to (the park). It was (nice). ・ 音声を聞いて繰り返し読んだ（言った）後、ワードボックスから言葉を選んで書き写す。	T: Please listen to the sentence and look at the words in your textbook. T: Listen to the sentence again and read it. Copy one word from the word box.	デジタル教材、ワークシート
5 分	【振り返り】 ・ 本時の活動を振り返り、振り返りカードに記入する。 ・ 挨拶をする。	・ 本時のねらいに照らして児童を評価する。 ・ 挨拶をする。	振り返りカード

パフォーマンス・アセスメントとその意義*

廣江 顕

長崎大学言語教育研究センター

Performance Assessment and Its Significance

Akira Hiroe

Center for Language Studies, Nagasaki University

Abstract

The purpose of this paper is two-fold: It is discussed what the performance assessment (PA) itself should be under the new course of study (2017) and its significance in Japanese junior high schools, then arguing that PA can be a useful tool for making general inferences about the English speaking ability of Japanese junior high school students. The PA is highly requested by the Ministry of Education to capture their exact English proficiency based on a scoring rubric. The scoring rubric should be based on Can-Do lists, which have become significant in that students and teachers share with each other what junior high school students could do in their English classrooms. It is suggested, moreover, that the findings by the PA contribute greatly to improvements of other language skills, if appropriately carried out.

Key Words : performance assessment, Can-Do list, scoring rubric, benchmarking procedure, interrater reliability

1. はじめに

本論の目的は、二つある。一つは、中学校において英語の指導を行う際、学習到達目標をどの程度達成しているかのひとつの重要な指標となり得る「パフォーマンス評価(Performance Assessment: PA)」そのもののあり方について考察を加え、2020年(平成32年度)から完全実施される新カリキュラム並びにその『学習指導要領』の枠内で、どのような形式・方法で実施するのが望ましいかを議論すること。もう一つは、生徒の英語力の一面を正しく測定することがPAは可能であり、その結果、得られた知見をPA以降の授業で活用するのに最適な方法の一つであることを議論することである。現段階では、小学校に導入される教科としての英語に関し、文部科学省がどういった評価を求めるかについては、依然として不透明なままだが、PAのような客観的評価方法は、正しく行われれば、中学校と同様に小学校においても、PAから得られる知見はスピーキングのみならず、それ以外のスキルを活用・統合した応用力を育成する際にも十分貢献できることを示唆したい。

一般に語学教育においては、何らかのテストを学習者に対して行う場合、①それまでどのような目的・方法にもとづいて指導を行ってきたのか、次に②どのようなテストを作成するのか、つまり、指導を行ってきたことのうち何を問うのか、あるいはそれをどういう方法で測るのか、また③その結果をどういうふうに今後の指導に活かすのか、この三点を切り離しては考えられない。そのうちどれが欠けても、適切なテストとは言えないだろう。

いま述べたことを中学校の英語教育に置き換えれば、

①がCan-Do List (CDL)に相当するだろう。CDLについては、県によって、地域によって、またそれぞれの中学校の取り組みによって、活用の度合いは異なるようだが、特にCDLの公開という観点からは、概して十分とは言えない。CDLに関する取り組み状況を調査したものに「平成28年度英語教育実施状況調査(中学校)」があり、日本の中学校における英語教育の一端を象徴しているという点で興味深い。その調査によれば、「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を設定している学校は、7,111校で全体の75.2%となっており、27年度の51.1%から24.1ポイント上昇している」ものの、一方で「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を公表している学校は12.0%、学習到達目標の達成状況を把握している学校は34.2%となっている」ことから、「まだまだ学校内で言わば「閉じている」状態と言ってよい。¹つまり、せっかくCDLを設定しながら、活かし切れていない実態が浮かび上がってくる。

CDLをどういう形で生徒に提示するか、フラッシュカードのようなものにして黒板に単元の冒頭で掲示するか、あるいは英語教師が口頭でアナウンスするかといったような形式論はさておき、生徒と教師が達成目標を、つまり、まさに何ができるようになるか、を共有することの意義は大きい。とりわけ、生徒にも何ができるようになるか、何が使えるようになるか、ということについて、明確に意識することが可能となる。

CDLが本格的に中学校の英語教育に導入される前は、ある種の誤解が存在していたと言える。というのは、CDLが学習者視点で捉えられることがおおく、あくまで「学ぶ」という側面ばかりが強調され、「学ぶ」こと

それ自体が到達目標であるかのように考えられてきたからである。言語は「学ぶ」対象として認識されてきたものの、それ以上に、言語は使うものであるという使用者視点が見落とされてきたと言える。その意味で、CDLをもとにしたPAを実施するよう求められつつあるのは、当然の帰結と言えるだろう。

②については、これまでほとんど教師任せだったと言える。中学校現場に即して言えば、例えば、ある学年を一人の英語教師が担当しているような小規模校を除き、複数の教師で担当している場合、教えてきた内容の何を、どういう設問で問うか、一言で言えば、どういうテスト問題にするかは、担当教師ごとに項目の取り上げ方や扱い方に違いがあっても、問題作成者にはほぼ丸投げされていると言ってよい。作成した問題が妥当かどうかを複数の教師で検討する学校もなかにはあるようだが、それほど多いとは言えないのではないだろうか。

最後に、③に関して、対外的なテストが実施されている場合には、テスト全体や設問ごとの正答率が客観的なデータとして提示・共有され、学校ごとにどのスキルが強く、どのスキルを苦手としているか、教師にはひと目でわかるようになっていく。その分析結果にもとづき、教師は生徒の弱点を補強していくために、授業時の帯活動等でどういった対策を行えばよいかを検討する機会が与えられている。長崎県の中学校の場合、「長崎県学力調査テスト」が3年次に課されており、その所管部署が平成27年度までは長崎県教育センター、平成28年度からは長崎県教育庁義務教育課に移行され、テスト結果の分析等を発信している。²

ここで強調したいのは、テスト結果の分析、またその分析によって得られる知見をその後の授業にどう活かすかについて考察を行い、教育委員会が何らかの対応を促す文書を発信していることは、たんなるテスト対策であってはいけないという点である。文部科学省は中学卒業時の英語力の目安として、英検3級程度以上を達成した生徒の割合が50%という目標設定を行っている。その目標をどの程度達成しているかについては、各都道府県教育委員会から文部科学省に報告の義務があり、言わば無言の圧力になっている。一方で、予算措置を行うならば話は別だが、中学生全員に英検3級を受験させることはできない。ならば、英検3級に相当するような代替テストの資格があるものはないのかと考えるのが自然な流れであろう。あくまで、目標達成のための手段という観点から捉えるべきである。

要は、中学卒業時までには英検3級以上、CEFRではA1レベル以上の英語力を身につけてもらうには³、個々の対外テストの結果云々ではなく、卒業時にリーディング力、ライティング力、リスニング力、スピーキング力という4技能がバランス良く培われていった結果として、英検3級以上の英語力を育成することである。

2. パフォーマンス評価

2.1. 外部専門機関と連携した英語指導力向上事業

パフォーマンス評価とは、文部科学省の『育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会―論点整理―』によれば、以下のように定義されてある。

- (1) 知識やスキルを使いこなす(活用・応用・総合する)ことを求めるような評価方法(問題や課題)であり、様々な学習活動の部分的な評価や実技の評価をするという複雑なものまでを含んでいる。また、筆記と実演を組み合わせたプロジェクトを通じて評価を行うことを指す場合もある。

本論では、PAを(1)の前半部分の「知識や」から「含んでいる」までとほぼ同じ意味で用いている⁴。そもそも私がPAを行うようになったのは、長崎県教育委員会義務教育課の「平成28年度外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」で、長崎市郊外にある研修協力校の研究に関わるようになったのを契機としている。研修協力校A中学校(以後、A中学校と略記する)の「Teaching ideas to improve communication skills」という大きなテーマの下、「既習事項を最大限活用して、身近なことを表現する生徒を育成するための指導の工夫～Focus on Speaking skill～」という具体的な研究テーマを設定した。研究を円滑に進めていくためには、まず生徒のスピーキング力を全体として正確に測定する必要性が生じ、PAを実施することが決まった。

2.2. 準備

まず、1年生と3年生を対象にすることをA中学校と相談の上決定し、その上で以下のようなものを準備した。なお、PAは原則として、それぞれの中学校に派遣されているALT(Assistant Language Teacher)が行う前提で議論を続けるものとする。

- (2) a. 使用教科書
b. 試験範囲のCan-Do List
c. スコアリング・ルーブリック

(2)に従い、A中学校で使用されている教科書及びCDLを入手し、PAを受ける生徒がどのレベルに到達しているかを示す5段階のルーブリックを作成した(Appendix Aを参照)。

(3)

Descriptions of Performance
5 The student understands and answers each question completely and is understood with little effort.
4 The student understands most questions with limited repetition needed. The response is sufficient, but may not be completely developed. Answers can be

understood with little effort.
3 The student understands most questions, but may require questions to be repeated or paraphrased. The response is somewhat limited and/or requires some effort to understand. Meaning may be obscured at times.
2 The student has consistent difficulty in understanding and answering questions, even when the question is repeated or paraphrased. The response is severely limited, requires significant listener effort, and meaning is obscured at times.
1 The student does not understand or cannot answer most questions. When the student does respond, their language is highly unintelligible.
0 The student makes no attempt to respond to any of the questions. Any/all language used is in Japanese.

PA というものは、狭い学習範囲を対象にして行うものではなく、学期に一回程度行うのが妥当であろう。というのも、PA は(1)で示されているように、決まった問いに決まった表現で応答するような単純なものではなく、あくまで学習者の知識やスキルを活用・応用・統合することを求めている、そうしたことを可能にするだけの学んだ量が必要となるからである。A 中学校で行った PA は、いずれの学年においても、PA を行う前の学期までに履修した事項をすべて含むものとした。

ただし、PA が妥当なもの、つまり、PA を受ける生徒が英語で応答することが期待されることと、実施する側が想定していることと乖離しないよう、当該学年の担当英語教師と入念に打ち合わせを行い、履修してきた内容、また授業時の言語活動等で取り上げ練習をしてきたことも確認した。

一方、実際的な準備事項として、下記のようなこともあらかじめ検討しておいた。

- (3) a. スケジュール
- b. 生徒の割り振り
- c. 試験会場 (部屋)

(3a)については、大規模校と小・中規模校とでは自ずから試験時間を確保する際の困難さが異なるであろう。小規模校になればなるほど実施する環境を設定しやすい。それに、人数によっては時間割を操作し、午前と午後のどちらかの時間をまるごと充てる措置も求められるであろう。実際、一学年あたり約 220 名規模の生徒数がある A 中学校においては、1 限目から昼休みをはさみ 5 限目までの時間を要した。(3b)では、試験官(rater)三人で一人あたり 15 人を担当して授業時一コマを消費した。(3c)については、試験官ごとに部屋を設けた。

2.3. 実施方法

まず、第一学年に行った実施方法から説明する。

(4) 1. Greetings

生徒が入室したら、“Hello! How are you today?”という挨拶を行い、着席を促す。

2. Biographical Questions

PA を名前、出身地 (住まい)、年齢等の質問で開始する。その際、試験官は生徒が理解できるように、特に子音に注意しながらゆっくりはっきり発音する。生徒が理解できない場合は、さらにゆっくりとしたスピードで、再度尋ねる。それでも理解できない場合は、次の質問に移る。

3. “Likes” Questions

何が好きかを尋ねる質問を行う。この項目には質問が四つ用意されているが、生徒はそのうち二つの質問に応答できればよい。生徒の応答に応じて、リストにある三番目また四番目の質問を行ってもよい。2 と同様、生徒が理解できない場合や応答できないと判断される場合は、次の質問に移行する。

4. “Do you ~ ?” Questions

“Do you ~?”形式の質問を行う。三つの質問のうち二つの質問に応答できればよい。質問に yes と応答した生徒には、follow-up question を質問してもよい。質問を理解できない場合や応答ができない場合は、次の Picture Description Task へと移行する。

5. Picture Description Task

生徒は、提示された絵の中の事物や人物について質問される。

- a. 生徒は、提示された絵の中の事物を指されながら、“What is this?”と尋ねられる。質問を繰り返してもよい。生徒は素早い応答が求められる。正しく応答できた場合は、もうひとつの事物を指し同じ質問を繰り返す。
- b. 試験官は、絵の中の事物を指しながら、否定応答を引き出すために、故意に誤った質問を行う。例えば、オレンジを指しながら“Is this a banana?”と尋ね、生徒から“No, it isn’t/No, it is an orange.”という応答を求める。生徒がこのタスクを理解するのが困難ならば、指示を繰り返す。求めた応答が得られた場合は、もうひとつの事物を指し同様の質問を行う。
- c. b で応答できない場合、以下の d~h の手順で別の質問を行う。
- d. まず、絵の中のある事物を指し、“What is this?”と尋ねる。質問を繰り返してもよい。応答ができた場合は、別の事物を指し、同じ質問を繰り返す。
- e. 次に絵の中の別の事物を指し、正しくない質問を行う。例えば、絵の中のオレンジを指しながら、“Is this a banana?”と尋ねる。否定する応答ができれば可。肯定する

応答をすれば、もう一度異なる事物で同じ手順を行う。

- f. *How many* 疑問文で提示した絵にある事物について質問を行う。たんなる数(e.g., “Four”)や短い応答(e.g., “There are four birds”)でも可。応答できない場合は、別の事物を選ぶ。それでも間違い続ける場合は、そこで終わるものとする。
- g. PA の終了を生徒に告げる。

次に、第三学年の実施方法を説明したい(手順1及び2については、第一学年と同様のため省略)。

(5) 3. Daily Habits Questions

日常の習慣を問う質問を行う。この項目には質問が四つ用意されているが、生徒はそのうち二つの質問に応答できればよい。生徒の応答に応じて、リストにある三番目また四番目の質問を行ってもよい。2と同様、生徒が理解できない場合や応答できないと判断される場合は、次の質問に移行する。

4. Present Perfect Questions

現在完了形を用いた質問群から、例えば、質問1と3というように、質問を選ぶ。3と同様、四つの質問のうち二つの質問に応答できればよい。生徒は質問文と同じく現在完了形で応答するのが望ましいが、現在完了形を使わずとも適切な応答ができれば可とする。質問を理解できない場合や応答ができない場合は、次の質問に移行するか、次の Picture Description Task へと移行する。

5. Picture Description Task

生徒は、提示された絵の中の事物や人物について質問される。

- a. 生徒は、現在進行形(e.g., “the man is going to read”; “the lady is eating”; “the people are talking”)を用いて、提示された絵の中で行われている行為を少なくとも二つ描写する。
- b. 生徒がこのタスクを理解するのが困難ならば、ゆっくり指示を繰り返すが、それでも困難な場合は、試験官は絵の中の登場人物の一人を指しながら、“What is she/he doing?”と尋ねてもよい。
- c. bで応答できない場合、以下のd~hの手順で別の質問を行う。
- d. まず、絵の中のある事物を指し、“What is this?”と尋ねる。質問を繰り返してもよい。応答ができた場合は、別の事物を指し、同じ質問を繰り返す。
- e. 次に絵の中の別の事物を指し、その事物を

故意に間違える。例えば、絵の中のオレンジを指しながら、“Is this banana?”と尋ねる。否定する応答ができれば可。肯定する応答をすれば、もう一度異なる事物で同じ手順を行う。

- f. 最後に、*How many* 疑問文で提示した絵にある事物について質問を行う(e.g., “How many birds are there?” / “How many people are there?”)。たんなる数(e.g., “Four”)や短い応答(e.g., “There are four birds”)でも可。応答できない場合は、別の事物を選ぶ。それでも間違い続ける場合は、そこで終わるものとする。
- g. PA の終了を生徒に告げる。

2.4. PA 終了後

生徒のスコアのダブルチェックを行う。生徒の動機付け、また英語そのものとアセスメントタスクを嫌がらないよう、ルーブリック評価に関する一般的かつ肯定的なコメント(e.g., “Nice work!”, “Good effort!”, “Way to go!”, and “Nice job today!”)を書き返却する。

2.5. パフォーマンスの解釈

PA(本論では、スピーキング力の評価)というものは、試験官が生徒の応答を観察する際、個々の判断にどうしても主観が混入してしまう可能性を否定できない。その可能性をできるだけ排除するために、生徒の応答を判断する際の指針として、標準化されたスコアリング・ルーブリックを活用することで客観性が保たれる。そうすれば、試験官の間で生じる差異を最小限に抑え込むことができ、PA そのものの妥当性・信頼性を担保することができる。

さらに、スコアリング・ルーブリックに従って、個々の生徒がどのスコアになったのか、クラス単位ではどういう結果になったのか、また学年単位ではどういう傾向になったのか、等々を試験官同士で、授業を担当している教師も交えて議論することが求められる。さらなる要請として、もし可能ならば、パフォーマンスが行われた状況を加味した形で、実際に観察されたパフォーマンスが、スコアリング・ルーブリックのそれぞれのレベルに相当するものであったかもしただけ具体的に捉えておくことが望ましい。

3. スコアリング・ルーブリックで想定されるパフォーマンス

スコアリング・ルーブリックは、6つのレベルに分けられており、それぞれのレベルには想定されているパフォーマンスの質がある。ただし、そのレベル分けはあくまで目安であり、現実には例外が多数観察されることもあれば、個々人で差が観察されることも少な

からずある。

では、具体的に想定されているパフォーマンスレベルを見てみよう。

Level5

このレベルの応答は、かなり自動的にかつ流暢に行われ、試験官は生徒が言うことを理解するのにほとんどあるいはまったくといってよいほど努力を要しない。質問を繰り返さないといけなことがあるとしても、1回あるか無いかという程度。当該の生徒は自信を持ち、質問されている内容以上のこと（なぜそうするのかという理由や、どうやってやるのかという方法）についても言及することがある。それぞれの質問に完全に応答がなされ、ターゲットとしている言語の特徴（例えば、現在完了形を使用する要請）も含んだ形で応答を行なっている。

Level4

応答は適切に行われているものの、それほど自動的にかつ流暢でもなく、一度あるいは二度、質問を繰り返す必要がある。生徒が言うことは、努力をほとんど要せず理解可能だが、話す内容には幅がない。それでも生徒は、すべての質問になんとか応答ができる。

Level3

生徒は、ほとんどの質問に理解はできるが、(3回)は質問を繰り返したり言い換えたりする必要がある。応答の形式は限られたパターンばかりで、理解するのに努力を要する。意味不明な応答もよく観察され、生徒は(第3学年では)、現在完了形を使った質問に応答することができないし、(第1学年では)「何が好きか」との質問に応答できない。したがって、試験官はより単純な質問を選ばなくてはいけなくなる。

Level2

生徒は、質問を理解することも質問に応答することも、質問を繰り返したり言い換えたりしても、困難なレベルである。したがって、多くの質問に応答できず、応答したとしても、応答の形式が極めて限られている。試験官は生徒の応答を理解するのに多大な努力を要するほど、意味不明なことがおおい。(第3学年では)現在完了形を使った質問に、(第1学年では)「何が好きか」を問う質問に応答できないばかりか、フォローアップのための質問にも応答できない。

Level1

生徒は、ほとんどの質問を理解できず、また応答もできない。なんとか応答したとしても、発することばは意味不明か、日本語が含まれていることがおおい。応答可能な質問としては、名前や住まいといったものがあるものの、動詞が脱落していたり妙な抑揚がついた発音をしてしまう。(第3学年では)現在完了形を使った質問に、(第1学年では)「何が好きか」を問う質問に応答できないし、他の質問にもほとんど応答できない。仮にできたとしても、応答が意味不明。

Level0

このレベルは、極めて稀なケースではあるものの、いかなる質問にもまったく応答しようとすらない生徒を想定している。頑なに日本語しか使おうとしない。

4. PAの結果

PAは、A中学校と相談の結果、2回実施した。1回目は1年生と3年生に行い、2回目は2年生に実施した。本論では、PAを実施して得た知見をその後の授業に活かすことも考察の対象としているため、同じ生徒集団に2度実施し、その伸びや共通して観察される誤り等の推移を捉えておく必要があった。

(8)1回目の評定ごとの割合と平均値

【1年生】

0	1	2	3	4	5	AVG
0%	3.9%	13.9%	33.3%	30.6%	18.3%	3.46

【3年生】

0	1	2	3	4	5	AVG
0.5%	7.7%	13.3%	32.8%	31.8%	13.9%	3.3

1回目のPAで観察されたことには、以下のようなものがあった。

(9) 1年生

- Do you* ～?といった一般動詞の疑問文や *Is this* ～?といった *be* 動詞の疑問文に、*No, I'm not* と応答する生徒が目立った。
- 主語代名詞を落とした英文(e.g., *like baseball*)を話す学生が多かった。
- How old are you?* という英文が理解できない生徒が極めて多かった。
- 冠詞がない英文を話す生徒がほとんどだった。

(10) 3年生

- 進行形が正しく使えない生徒が目立った。典型的には *be* 動詞を落としていた。
- There* 構文で *there* を落としていた生徒が目立った。
- How* 疑問文(e.g., *How was your trip?*)や *what do you do with your friends?* という特定の表現が理解できなかった。
- 現在の習慣を問う質問(*What do you eat for breakfast?*)に、過去形で応答する(*I ate* ～)生徒が目立った。

PAによって明らかになった、(9)(10)にリストアップされている、1年生、3年生、それぞれの弱点を踏まえた形で授業時の帯活動で取り入れた結果が、以下の(11)のようになった。

(11)2回目の評定ごとの割合と平均値

0	1	2	3	4	5	AVG
0%	2.3%	4.0%	11.5%	31.9%	50.3%	4.2

(8)と(11)を比較すると、PA によって浮き彫りになった生徒の弱点を、授業時のスピーキングのみならず、さまざまな活動で取り組んでもらうことにより成果が出たことがわかる。

5. パフォーマンス評価の妥当性

標準化されたスコアリング・ルーブリックはあるものの、その一方で、どの程度のパフォーマンスを行えばどのスコアになるのかについては、それぞれの中学校に派遣されている ALT が試験官となることが要請されることを想定すれば、他の試験官とスコアリングに個人差が生じてしまうは想像に難くない。そういった事態を回避するためには、何らかの「基準となる手順 (benchmarking procedure)、つまり、どのスコアレベルでこういったパフォーマンスが求められるかの具体例を試験官同士で共有しておけばよい。そうすれば、PA 終了後に、どの程度スコアリングが共有できたか、またどの程度判断が別れる点があったかを議論することができる。ただし、PA の様子をすべて録画・録音することが前提となるので、実現生は甚だ低いと言わざるを得ない。

もうひとつの可能性としては、スコアリングの基準をあらかじめ作成しておき、実際の PA を行う前にプレアセスメントを任意の生徒の集団に行い、録画・録音し、試験官すべてにスコアリングを行ってもらい、相互に比較し合うことも考えられる。そうすることで、PA それ自体の信頼性・妥当性が増すことは疑いない。またあるいは、試験官二人に互いの生徒をスコアリングし合うこと (interrater reliability) という方法もあり、首尾一貫したスコアリングと信頼性を保証するもうひとつ方法ではある。

いずれにせよ、PA は正しく行われれば、中学生の英語運用力を正確に把握するのに極めて有効な手立てのひとつであることは間違いない。

6. おわりに

以上、A 中学校で行った PA をもとに、その準備、実施方法、得られた結果及びその分析について詳細にモニターし議論してきた。2 回目の PA で平均スコアが劇的に伸びたことは、1 回目の結果とその分析によって得られた知見をもとに授業計画を再構成したことと、帯活動の内容と指導方法を A 中学校の担当英語教師が見直した結果である。

同様の PA を小学校においても実施することを強く推奨したい。2020 年から新しい指導要領のもと教科としての英語が新しくカリキュラムに導入されるが、授業を担当する教師並びに ALT の配置状況を考えれば、PA

を円滑に実施できる環境とは言い難い。文部科学省も来年度予算に英語の専科教員の配置増を求めているものの、英語の教員免許を持たないにもかかわらず、教科としての英語を教えることを強制されるという根本的な問題がどの程度解決できるかについては、少なくとも現時点では否定的な見方しかできない。

例えば、例外的な措置ではあるものの、中学校の英語教員が小学校に一定期間異動できるような措置を長崎県は来年度から行うようである。同じような試みを行った地域が少数ながらあったが、その効果に関するきちんとした検証が行われているかどうかははっきりしない。いずれにせよ、中学校の英語教員に小学校で教えさせれば事足するという単純な問題ではない。というのも、小学校の児童という発達段階には、それ相応の指導法や理論があり、中学校の英語教師が取っている生徒へのアプローチ方法とは異なるものだからである。

こうした状況を改善していくためには、教育学部等の養成段階からのカリキュラムの見直しを行い、小学校の英語の授業に対応する人材を育成し、一方で現職の教師には、教員研修等の機会を利用して講習を行っていくといった方法が考えられる。PA もそのような機会を利用して、実施方法や意義を伝えていければと考えている。

注

*本研究は、「平成 29 年度文部科学省教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」からの援助の一部を受けている。また、本研究を実施するにあたって、長崎県教育委員会義務教育課にご協力いただいた。それに諫早市教育委員会には、指導主事並びに ALT に現場で実施する際の有益なコメントもいただいた。感謝申し上げます。

1. 長崎県の場合、「CAN-DO リスト」形式による学習到達目標を設定している学校は 83.9%、その目標を公表している学校が 7.5%、公表している学校は 34.5% に留まっている。
2. 長崎県教育委員会義務教育課は、毎月 1 回の割合で、『明日のために』という紙媒体で、英語だけでなく他の教科も同様に発信している。
3. CEFR(Common European Framework of Reference for Languages)では、最も初歩的なレベルが A1 であり、英検 3 級より低いレベルもその中に含まれている点に注意。
4. Language assessment がどういうものであるべきかを概説的に論じたものに Brown (2012)。他に具体的な方法等を論じたものに Brown (2013)。

参考文献

- 1) Brown, J. D (2012) *Developing, Using, and Analyzing Rubrics in Language Assessment with Case studies in Asia and Pacific Languages*, Nflrc Monograph.
- 2) Brown, J. D (2013) *Developing Rubrics for Language Assessment*, URL: <https://vimeo.com/60470458>

- 3) Crusan, D (2013) *Designing Writing Assessment and Rubrics*, URL: <https://vimeo.com/79501398>
- 4) 文部科学省(2014)「育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会―論点整理―」 p. 42.
- 5) 文部科学省(2016)「平成 28 年度英語教育実施状況調査」 pp.1-8.
- 6) 文部科学省(2017)『中学校学習指導要領』 (URL: http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/06/21/1384661_5.pdf)

Can-Do List for Lesson 8-9 in *Hi, friends!*

Lesson 8	Students will be able to: • Ask about a class schedule • Respond about a class schedule • Understand and produce school subject-related vocabulary (e.g., <i>social studies, P.E.</i>) • Understand and produce schedule-related vocabulary (e.g., <i>Monday, Tuesday, 1st period, 6th period</i>) • Identify differences between Japanese and non-Japanese school schedules through listening
Lesson 9	Students will be able to: • Make polite requests • Answer polite requests • Understand and produce food-related vocabulary (e.g., <i>pizza, milk, pudding</i>) • Identify a picture based on a listening passage's content • Identify singular/plural forms of vocabulary (e.g., <i><u>some</u> sausages, <u>not a</u> sausages</i>)

Target Sentences

Lesson 8	What do you study on (day of the week)? I study (subject) on (day of the week). What do you study in (class period)? I study (subject) in (class period).
Lesson 9	What would you like? I'd like (food). I/we have (food). Original parfait task (p36) (or original school lunch task, p40) What's on your parfait? My parfait has (food listing). Does it have (food)? Yes, it does./No, it doesn't.

Main Vocabulary

Lesson 8	Japanese, English, math, social studies, science, music, P.E., arts and crafts, home economics, calligraphy Monday, Tuesday, Wednesday, Thursday, Friday First period, second, third, fourth, fifth, sixth
Lesson 9	Hamburger, omelet, hamburger steak, salad, cake, spaghetti, hot dog, pizza, ice cream, yogurt, pudding, orange juice, parfait, sushi, sausages, fried chicken, green tea, <i>natto</i>, <i>miso</i> soup, rice, bread, French fries, milk, banana, grape, apple, strawberry, cherry, peach, kiwi, pineapple, lemon, orange, melon

Kuroshima Elementary 5th & 6th Grade

Speaking Assessment

Introduction

1. What is your name?
2. How are you today?
3. How old are you?

Ch. 8 – School Subjects

1. What do you study on (day of the week)?
2. What do you study in (class period)?

Ch. 9 – Food

1. What food would you like for breakfast/lunch/dinner?
2. What do you have for school lunch?

Original parfait/menu Task

1. What would you like on a parfait?
2. Does it have (food)?

Kuroshima Elementary School

Fifth and Sixth Grade Speaking Assessment Rubric

Name ()

General Rubric	Can-do Statement Checklist
5 The student understands and answers each question completely and is understood with little effort.	☐ I'm (name). ☐ I'm (feeling), thanks. ☐ I'm (age).
4 The student understands most questions with limited repetition needed. The response is sufficient, but may not be completely developed. Answers can be understood with little effort.	☐ What do you study on (day)? ☐ I study (subject) on (day). ☐ What do you study in (class period)?
3 The student understands most questions, but may require questions to be repeated or paraphrased. The response is somewhat limited and/or requires some effort to understand. Meaning may be obscured at times.	☐ I study (subject) in (class period). ☐ What would you like? ☐ I would like (food). ☐ I/we have (food).
2 The student has consistent difficulty in understanding and answering questions, even when the question is repeated or paraphrased. The response is severely limited, requires significant listener effort, and meaning is obscured at times.	☐ Differentiates between singular and plural forms (e.g., a sausage, not a sausages)
1 The student does not understand or cannot answer most questions. When the student does respond, their language is highly unintelligible.	
0 The student makes no attempt to respond.	
Comments	

お わ り に

本事業を実施していく過程でも、新しいカリキュラムに関わる施策を文部科学省は次々と打ち出してきた。主なものだけでも、教科としての英語の時間数を確保するという観点から、それまで「カリキュラム・マネジメント」を行う必要があるとの認識を現場に持たせてきたが、暫定的な措置ながら「総合的な学習の時間」を利用してもよい、との通達が出た。また、教科としての英語の授業で使用する教科書『We Can』の電子版も公開された。

このように状況が変化するなか、教科としての英語の授業を既存のカリキュラムに組み込むことも含めて、授業はどのようなものであるべきかがまず第一に確定されないと、教員研修モデルがどうあるべきかの議論には移行することが困難なこともあった。制度の現在進行形の改変にいささか翻弄された感は否めない。

実施した教員研修で提示したモデル授業も研修の参加者だけでなく、もっと多くの先生方に提示していく必要があるとの認識に至り、教師用指導 DVD も本事業の成果物として作成した。実は、東彼杵郡での教員研修を昨夏に実施した段階で、すでにモデル授業の素案は映像に収め、小学校の教科英語の検討委員である中村典生氏から有益な助言及びコメントをいただいていた。その素案をもとに、EEI のひとりである寺田よしみ氏に依頼し、インストラクターとしてモデル授業を撮影したものを収めたのが DVD 成果物である。

本事業が、広い意味で、長崎大学が行う地域・社会貢献の一環として理解されればと願っている。